

## iPhone の活用(4) —カートリッジの負荷調整(1)—

### 1. はじめに

iPhono 導入記(2) では LP12 にセットした Ortofon SPU Synergy の負荷の調整を行いました。前報(3)で報告しましたアームの調整が終わったことから、iPhono との相性を試していないカートリッジについて LP12 にセットして試聴を行っていきます。今回は Ortofon SPU Synergy 以外の Ortofon SPU 系のカートリッジ について音質評価を兼ねて実施します。

### 2. カートリッジの負荷の調整の方法

今回使用したカートリッジは次のものです。

Ortofon SPU Royal N 写真①

Ortofon SPU GE 写真②

Ortofon SPU Classic G 写真③



SPU GE は以前から G シェルから取り出して直接 AC-300 II 用のシェル一体型アームに取り付けて使用していたのですが、元の G シェルを紛失したので、FR64S に取り付けるために Ortofon 製のシェルに取り付けました。

これらの負荷インピーダンスに関連する情報としては、Ortofon SPU Royal N では内部抵抗  $6\Omega$ 、Ortofon SPU GE では直流抵抗  $2\Omega$  という資料しか見つかりません。また、Ortofon SPU Classic G では Recommended load impedance として  $10\Omega$  以上とあります。

これらの数値を参考に負荷インピーダンスを設定し、iPhono 導入記(2)以降に LP12 の調整も行ったことから Ortofon SPU Synergy 写真④も同時に使用し、このものをリファレンスとして聴きこんでいきました。なお、ターンテーブルは LP12、アーム

は FR64S でフォノケーブルは LINN のケーブル、iPhono からの引き出しにはリベラメンテを使用しています。

### 3. カートリッジの負荷の調整の試聴結果

まず、Ortofon SPU Synergy 自体の印象が、前報(3)でも述べたように LP12 の調整で随分と変わってきており、調整前の同じ盤を聴いた印象から全体がヴェールを1枚剥いだようにクリアになり、間接音もはっきり聴き取れるようになりました。

Ortofon SPU Royal N では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、SPU Synergy よりもっと繊細な感じで細部を描きわけることができます。

Ortofon SPU GE では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、今回久しぶりに聴きましたが、ややレトロな雰囲気はあるものの、意外にフレッシュで太目の厚めの音は Ortofon の原点的な音がします。

Ortofon SPU Classic G では SPU Synergy と同様 22 オームの負荷インピーダンスで問題なく、SPU GE に近い音はするものの G シリーズの復刻版だけあって少し現代的な音に変わっています。

ここで元の SPU Synergy に戻すと SPU Classic G をさらに現代的にモディファイしたような音で G シリーズの中では明晰、かつ押し出しのある音がします。

### 4. まとめ

LP12 と FR64S の調整、および iPhono の負荷インピーダンスの調整の結果、Ortofon SPU 系のカートリッジの印象が随分と変わってきており、ある意味個々の Ortofon 臭さが無くなってニュートラルな高忠実度の再生音を聴かせてくれるようになりました。

以上